

## 第5回 湖西市地域公共交通会議 会議録

日 時：平成29年3月22日（水） 10時00分～11時45分

場 所：湖西市民活動センター2階大会議室

出席者：18人

会長	丸谷 由行	湖西市副市長
副会長	片山 彰宏	湖西市企画部長
座長	伊豆原 浩二	愛知工業大学 客員教授
委員	高林 宏明	遠州鉄道株式会社 運輸業務部長
委員	大久保 公雄	浜松バス株式会社 支配人
委員	杉山 浩一	遠鉄タクシー株式会社 営業部長
委員	堀田 勝之	天竜浜名湖鉄道(株) 常務取締役
委員	鈴木 哲也	遠州鉄道労働組合 副執行委員長
委員	田所奈保子（代理）	静岡県 交通基盤部 地域交通課長
委員	良知 考悦	静岡県 浜松土木事務所 維持管理課長
委員	太田 憲一（代理）	静岡県 湖西警察署 交通課長
委員	竹島 清一	湖西市自治会連合会 会長
委員	田内 清之	湖西市老人クラブ連合会 会長
委員	森 宣雄（代理）	湖西市社会福祉協議会 会長
委員	内山 安弘	新居町商工会 事務局長
委員	佐々木 由美子	市民委員
委員	山本 渉	湖西市 健康福祉部長
委員	青島 一郎	湖西市 都市整備部長
事務局	小林 良治	(株)国際開発コンサルタント
事務局	渡辺 一真	(株)国際開発コンサルタント
事務局	小林 利幸	湖西市 企画部 市民協働課長
事務局	石田 裕之	湖西市 企画部 市民協働課長代理
事務局	佐原 敬	湖西市 企画部 市民協働課 公共交通係長
事務局	村松 慶太	湖西市 企画部 市民協働課 公共交通係

当日配付資料：資料1：地域公共交通会議委員の指摘と対応方針、  
地域公共交通網形成計画（案）説明用資料

### 1 開会

### 2 会長挨拶

### 3 報告事項

地域公共交通会議委員の指摘と対応方針について

<事務局>

- ・資料1に基づき説明。

<座長>

・協議事項で重複する部分の説明もあるということなので、質問やご意見がなければ協議事項へ移らせていただきます。

### 4 協議事項

協議事項 湖西市地域公共交通網形成計画(案)について

<事務局>

- ・説明用資料、資料2湖西市地域公共交通網形成計画(案)、資料2-1に基づき説明。

<座長>

・P84の拠点内巡回については、鷺津、新所原、新居町駅を示していますが、鷺津には循環線があるが、他の地域においても、循環路線を考えていくということによろしいですか。

<事務局>

・拠点巡回については“循環”だけを指すものとは考えておりません。新所原地区については、ゼロベースで路線の再編を計画しております。

<座長>

・市民がこのイメージ図を見ると、新所原、新居についても鷺津と同様に循環路線の機能であると捉えられてしまう恐れもあるので、鷺津においては循環を含めた、他の2駅については区別できる記載としましょう。

P90においても、拠点駅(鷺津、新所原、新居町)となっていることから、イメージ図以後のページについても修正をお願いします。

<委員>

・P103のスケジュールにおいて、東海道本線と天竜浜名湖線については適正なサービスの提供になっているのに対して、浜名線だけ現行サービス水準の維持となっているのは何か理由がございますか。

<事務局>

・浜名線については、地域間幹線系統として現在も運行をして頂いているところですが、現行サービスの維持の中に適正なサービスの提供も含まれていると考えています。

<委員>

・主体性の違いについてはどうでしょうか、何を持って適正とするか、評価基準とするかがわかりにくいのではないのでしょうか。

<委員>

・浜名線の基準というもので考えると、大型バスを走らせているのに見合うだけの乗車人員が確保できているかという点になりますが、浜名線についても補助金を頂いて路線を維持できている状況ですので、インフラの維持という意味で、維持すること自体がサービスの提供と考えています。

<座長>

・サービスの維持と市民への利用促進があつて初めて補助金が路線維持に認められる流れになるので、補助金ありきでの考えではなく、地域間幹線の民間事業者としてどのような路線を考えていくのが重要です。天竜浜名湖線は現行のサービス水準の維持となっていますが、どのようにお考えですか。

<委員>

・様々な施策を講じていますが、利用者は減少傾向にあります。その中で適正なサービス水準と考えると、現行の維持ではないかと考えます。

<委員>

・P92では主語が不明確ではないのでしょうか。事業者が“サービス確保の考え方”にあるサービス水準の維持を宣言するのは厳しいのではないのでしょうか。

<事務局>

・P103の浜名線についても現行サービス水準の維持とする方向で修正したいと思います。

<委員>

・天竜浜名湖線について広義に考えれば、サービスの維持はもちろん大前提であり、利用促進策も実施しています。ただ、周辺市町と協力して実施していくものであり、主語としては事務局も含んだ実施主体となるのではないのでしょうか。

<座長>

・事業者の役割とすると、事業の水準の維持を事務局が要請する形になるのか決めなければならないですね。各事業者が展開する事業に関しては事業者の主体となるが、具体的なことまで記載するとなると未定のものも多くあると考えられます。事業者が実施していく施策に関しては、追加で掲載することも可能ですので、今は見える部分で実施していくということはどうでしょうか。

また、事業主体として“現行サービスの維持”とすると大変なものではないのでしょうか。

<委員>

・長期的な意味では減少傾向ですが、努力はしていきます。現行サービス水準の維持は事業者の考え方として持っています。

<委員>

・遠州鉄道においても、現段階においてサービス水準を維持していくという考えはあります。

<座長>

・表現は考えますが、方針としては現行サービス水準を維持していくというようにしましょう。委員として参加していない東海道本線については確認をお願いします。

<事務局>

・東海道本線については確認を実施します。

<座長>

・それでは、公共交通イメージの機能分類にあった“拠点内巡回”について各駅毎の記載をわけると、公共交通軸の東海道本線、天竜浜名湖線、浜名線については現行サービス水準の維持という方針で修正を行うということで、他に異議がなければ承認という形でよろしいですか。

異議を唱える声なし

<座長>

・それでは、承認とさせていただきます。事務局は次の協議事項の説明をお願いします。

協議事項 自主運行バス浜名線の継続運行について

<事務局>

資料3、3-1、3-2に基づき説明

<委員>

・資料3に平成30年4月からコーちゃんバス化とありますが、どのような予定か説明して頂けますか。

<事務局>

・自主運行バス浜名線については形成計画にも記載させて頂いておりますが、平成30年4月に対距離制運賃の改正を予定しています。それに合わせてコーちゃんバス化という形を考えており、路線再編については平成31年10月を考えています。

<座長>

・ここへの記載としてはあくまで平成29年度一年間の運行について、現在の自主運行バス浜名線の継続

運行を行うものとして事業者を選定するという事です。

事務局の説明にあるように、運賃体系の見直しをもってコーちゃんバス化とするかどうかは平成 29 年度において協議し決定していくので、前後しますが、形成計画のスケジュールにおいて内容は変わりませんが、表現を修正した方がよいかと思われます。他に質問、意見がなければ、承認としてよろしいですか。

異議を唱える声なし。

<座長>

それでは、承認とさせていただきます。

## 5 その他

<委員>

・今改めて計画の序をみると、持続可能な公共交通のための計画策定ということで、持続可能ということが各主体（交通事業者、行政、住民）に過度な負担を強いていくことが持続可能ということにはならないと思います。やはり利用者への利用促進を実施していくことが重要なことではないかと思ひます。

<座長>

・何をもって持続可能ということは非常に難しい問題だと思ひます。他になければ事務局にお返しいたします。

<事務局>

・来年度の会議は5月末から6月頃を予定しています。  
それでは第5回会議を終了いたします。

以上